

クマバチの巣について

黒 田 礼 文

クマバチの巣についての報告は、筆者の知る限りでは、関西昆虫学会々報 Vol. 5 (Nov. 1934) で、飯田吉之助 (pp.66~74) 及び生島義夫 (pp.81~88)があるが、それ以後の報告はみられない。さいわいにして、筆者は今春、兵庫農科大学のサクラ (樹齢50年余のソメイヨシノ) に営巣した本種をみつけ、これを採集したので、ここに、本種の巣についてのべることにする。稿をはじめのあたり、いろいろとご指導下さいました岩田久二雄先生に深謝いたします。

1964年5月30日、兵庫農科大学のサクラ (ソメイヨシノ) に営巣した本種の1個体をみつけ、翌31日、これを折り取り持ちかえった。飯田 (p.69 [6]) によると、造巣する木については、ヒノキ・スギ・キリ・ハクモクレン・ノグルミ・モクセイがあげられ、生島 (p.85B) によると、ユーカリ樹があげられているが、筆者は、これらにソメイヨシノ (サクラ) を加えたい。なお、この造巣されたサクラは木材腐朽菌の一種によって犯され、すでに枯死したものであった。巣は、地上2mの高さに営まれ、地面に対し、約45度の角度で南方に突き出し、同枝上方には、昨年に営巣された巣坑が残り、それには、ドロバチの一種及びハキリバチの一種が営巣していた。ハキリバチの育房は、新しいもので、2個の幼虫室が発見された。

出入口は枝の下面、地上に向いている傾斜面にあり、これは雨露を防ぐためであろう。坑道及び幼虫室は出入口より上方及び下方につくられ、枝の上方に5幼虫室が、下方に2幼虫室がつくられ、下方にもう1個の幼虫室がつくられつつあり、周壁がかじりとられ、すでに坑道よりもふくらんでいて、花粉が少量運び込まれていた。なお、1個の幼虫室が形成されかけていたことを示している。

次に各幼虫室について記すと、最上部及び最下部の幼虫室の各々の上部は“すりばち状”を呈している。他の幼虫室は、上方は平滑な木くずで形成された面 (円形を呈する) によりなり、下方はらせん状の円を描く木くずの面 (円形を呈する) により形成されている。ここで言う上方、下方は出入口を中心としたもので、出入口を下としたもので、枝の上下ではない。幼虫室及び巣の外形を次に示す。

Fig. I : 巣の外形模式図

- (1) I, II : 昨年営巣された巣の入口
III : 今年営巣された巣の入口
- (2) A : 営巣した木の口径 2.5cm
幼虫室の口径 1.6cm
B : 営巣した木の口径 3.3cm
幼虫室の口径 1.6cm
- (3) III : 入口の口径 1.1cm × 1.2cm
- (4) 丸太の表面より幼虫室までの距離 最深 0.9cm 最浅 0.5cm
- (5) 坑道の長さ (A-B) 34cm



Fig. I

Fig. II : 幼虫室の模式図

I ~ VIII : 幼虫室

(この順に形成されていく。)

- | | | | |
|------|-----------|----------|-----------|
| I | : L 2.3cm | W 1.7cm | 仕切り 1.5cm |
| II | : L 1.8cm | W 1.7cm | 仕切り 1.5cm |
| III | : L 1.8cm | W 1.7cm | 仕切り 1.6cm |
| IV | : L 1.8cm | W 1.8cm | 仕切り 1.6cm |
| V | : L 1.9cm | W 1.8cm | 仕切り 1.6cm |
| VI | : L 2.3cm | W 1.8cm | 仕切り 1.7cm |
| VII | : L 2.0cm | W 1.8cm | 仕切り 1.7cm |
| VIII | : L — | W 1.75cm | 仕切り — |

出入口からVまでの最短距離 1.6cm

※VIIIは作りかけの幼虫室である。

L : 最長

W : 最大幅

Fig. II

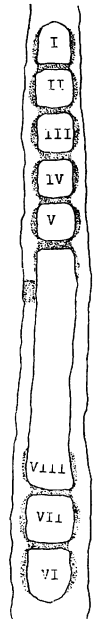
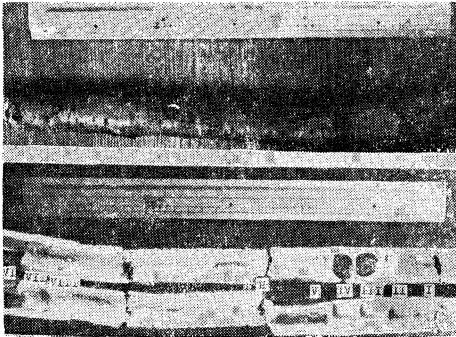
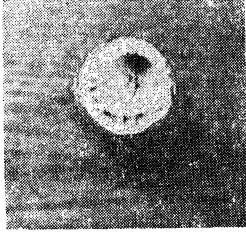


Fig. III



上図：巢の外形

下図：巢の内部

I～VIII：幼虫室

H：出入口の穴

(I, II, V, VI, VIIは内容物を除去)

右図：最上部幼虫室の天井

[参考文献]

関西昆虫学会々報 Vol. 5 (pp.66～88)